

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・情報の扱い方に関する事項の校内平均正答率が1、2学年で目標値を上回った。
- ・話すこと・聞くことに関する事項の校内平均正答率が2、3学年で目標値を上回った。
- ・読むことに関する事項の校内平均正答率が1、2学年で目標値を上回った。

(2) 課題

- ・言語の使い方に関する事項の校内平均正答率が1、3学年で目標値を下回っていた。
- ・書くことの事項の校内平均正答率が全学年で目標値を下回っていた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	「情報の扱い方に関する事項」と「読むこと」において目標値を上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」において目標値を下回っている。		
第2学年	「聞くこと」と「読むこと」「文法・語句に関する事項」「文学的な文章を読み取る事項」においては目標値を上回っているが、「文章を書く事項」「書くこと」で目標値を下回っている。	「読むこと」「話すこと・聞くこと」「言語文化に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」において目標値を上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」で目標値を下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	「言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」については目標値を上回っているが、説明的な文章、文学的な文章とも、読み取りで目標値を下回っている。	「言語文化に関する事項」「説明的な文章の読み取り」「スピーチ」については目標値、全国平均を上回っているが、「書くこと」で目標値を大きく下回っている。 (第2学年時)	「書くこと」で目標値を大きく上回っている。 「言語文化に関する事項」「説明的な文章の読み取り」については目標値、全国平均を下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を読む、漢字を書く問題の正答率が目標値を下回っているが、文法・語句に関する事項の問題の正答率が目標値を上回っている。	・文章を書く問題の正答率が目標値を下回っているが、説明的文章や文学的文章の内容を読み取る問題の正答率は目標値を上回っている。	・授業中のスピーチ発表に向けた取り組みから、粘り強く課題解決に取り組み、自己の学習を調整する能力は、生徒一人一人の差が大きいことが読み取れた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を読む問題、文法・語句に関する問題の正答率が目標値を上回っている。	・聞くこと、文学的な文章を読み取る問題の正答率が目標値を上回っているが、文章を書く力や工夫する力において課題がある。	・授業内の発表や課題制作への取り組みから、自主的に考える力を持ち、それを表現する力において個人差があることが読み取れた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み、書きともに目標値を上回り、漢字の力は定着してきている。	・話すこと、聞くことで目標値を上回っている一方で、文章を読み取る設問に課題がある。	・既習の知識を応用して、話すこと、書くことの力は伸びている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み書きの力を付けさせるために、夏休み明け評価テストや定期考査などに向けた学習で繰り返し練習するように取り組ませる。	・文章を書く力を付けさせるために、単元ごとに小テストで記述問題に取り組ませる。授業の中でも、意図的に自分の考えを記述する機会を設ける。	・毎授業目標を明確にして、どのように取り組んだかを自己評価させる。その取り組みの中で、粘り強く自己の学習を調整する力を高めさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章を書く力を身に付けさせるために、作文プランを用いつつ、語句を学ぶ学習を行い、語彙力を拡張するよう授業で取り上げる。	・文章を書く力を伸ばすためにこまめな作文と添削を行い、「良い作文」を真似ていけるよう、読解の時間を設ける。	・目標と評価基準を明確にし、他者に評価してもらう機会を多くすることで、「伝えること」に意識を置いた学習意欲を起す。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・批評文、スピーチなど、取り組みに応じて使える語彙を増やすために、より多様な文章を授業の中でとりあげる。	・文章の読み取りに課題があるため、説明文の構成、物語文の流れをとらえながら読む教材に取り組む。	・文法、文章構成、漢字など文章を書く中で既習の内容を活かすことができているかを確認する課題に取り組む。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・話し合い活動を行い、生徒が学習内容について考える機会を増やせた。
- ・調べ学習を通して、生徒が学習内容をまとめられた。

(2) 課題

- ・基礎、基本的な内容の定着。
- ・資料を読み取り、表現する能力の向上。
- ・ICTを活用し、話し合い活動や調べ学習を充実させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に基礎は目標値を大きく下回った。		
第2学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に活用は目標値を大きく下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 (第1学年時)	
第3学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に基礎は目標値を大きく下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 (第2学年時)	基礎も活用も目標値を下回った。 特に基礎は大きく下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。小学校で学習した内容が定着していない。	目標値を下回っている。資料から情報を読み取る能力に欠けている。	ICTを活用した学習を通じて、自ら学ぼうとする姿勢が見られてきている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。1学年の学習内容が定着していない。	目標値を下回っている。資料から情報を読み取る能力に欠けている。	話し合い活動を通じて、生徒が学習内容について考える機会を設定し、主体的に学習できる場面を設けている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく下回っている。1・2学年の学習内容が定着していない。	目標値を下回っている。特に、資料から情報を読み取る力と、そこから考察する力が十分ではない。	定期的な小テストの実施と、4人組学び合い学習により、主体的に学習に取り組む姿勢が身についてきている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークやプリントによる学習を通して、基礎知識の獲得を目指す。	資料から読み取れることを記述させたり、話し合わせたりする機会を増やす。	グループ学習や調べものの学習の発表を通して、生徒同士で認め合う機会を増やす。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークやプリントによる学習を通して、基礎知識の獲得を目指す。	資料から読み取れることを記述させたり、話合わせる機会を増やす。	グループ学習や調べものの学習の発表を通して、生徒同士で認め合う機会を増やす。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各授業の前半で、重要語句の確認の時間をとる。小テストを活用し定着を図る。	評価基準を明確にし、問いに対する自分の考えを表現する練習を、授業で繰り返し行う。	学習を活用しながら、生徒の主体的な学びと対話的な学びを促す。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元テストや小テストを多く取り入れ、復習の機会を増やし、基礎・基本の定着につなげた。
- ・グループ学習や教え合いの時間を確保し、さまざまな解法を見出すことができた。

(2) 課題

- ・文章問題や応用問題への苦手意識が強く、取り組みに対する姿勢が消極的である。
- ・授業中には理解しているが、定着できていないため、試験での得点に結びついていない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用の正答率は、ともに目標値に近い結果となったが、「データの活用」で大きく下回った。		
第2学年	基礎と活用ともに目標値に近い結果となった。前年と同じく記述形式の問題が目標値を大きく下回った。	基礎と活用ともに目標値に近い結果となった。記述形式の問題が目標値を大きく下回った。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を下回っていることに変わりがないが、データの活用や記述問題の正答率が目標値に近づいた。	昨年度から正答率が上がっているが、目標値に達していない。特に記述問題は標準値を大きく下回った。 (第2学年時)	基礎と活用の正答率は共に目標値を下回った。特に、「小数・分数の計算」で大きく下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
少数・分数の計算や平均や場合の数の求め方の定着に課題がみられる。	グラフの読み取りや、読み取ったことを具体的に説明する問題で課題が見られる。	できない、わからない問題にも挑戦しようとする姿勢がみられるようになるとよい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絶対値についての理解や負の数の減法、乗法の計算の定着に課題が見られる。	数量関係を式に表すことや、文字を用いて立式すること、グラフに表すこと、説明形式に則って表現することに課題がある。	話を聞く態度や集中して取り組む姿勢に課題がある。解き方や求め方を習った用語を用いて説明する練習が必要である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
等式変形、等式の意味と移項、1次関数の式の意味、式とグラフの関係の理解、図形の性質の基礎に課題が見られる。	文章を理解し式で表すこと、証明を論理的にすすめようと考え表すこと、データを読み取り、分析することに課題がある。	話を連続的に聞くこと、自ら思考し、つなげて考えること、最後まであきらめずに取り組むことに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに復習する時間や理解度を確認する時間を設定し、タブレットなどを用いて、繰り返し学習ができるようにする。	学び合い活動やグループでの活動を通して、自分の考えを伝える場面を設定する。	ワークシートや確認プリントを活用して、全体の理解度がどの程度かを見ることができるようにし、目標を意識させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題など多く行い定着を図る。	用語の意味、簡単な問題や例題の解き方を説明させたりして、言語化して伝える訓練を行う。	「できたこと」を見える化し、学ぶ意欲を高めたり、課題を明確にさせて支援する機会を増やす。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1, 2年の内容を振り返り、学習内容と関連付けを行い、記録させる。練習問題を継続的に取り入れ、定着させる。	1, 2年の内容を振り返らせ、学習した思考や表現を多く活用させる。自分の考えを表現する機会を意図的に作る。	評価場面を明確にし、「できる」「わかる」ことを増やす。記録する場面を増やす。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・観察・実験を安全に行い、技能の向上を図る時間の確保ができた。
- ・問題演習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図ることができた。
- ・ICTを活用し、学習意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・ICTを活用した個別最適な学びの推進。
- ・主体的・対話的で深い学びにつなげるための、科学的思考を深める工夫。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全体的に目標値を下回っている。特に、物理分野の正答率が低い。		
第2学年	目標値を下回っているが、粒子分野の正答率は目標値を超えることができた。	目標値を下回っており、特に物質・エネルギー分野の正答率が低い。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を下回っており、特に地球・エネルギー分野の正答率が低い。 (第3学年時)	目標値を下回っているが、生命分野の知識・技能に関しては全体の50%を超えており、目標値に近づきつつある。 (第2学年時)	目標値を下回っており、特に生命・地球分野の正答率が低い。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。大地のつくりと変化、水溶液の性質の正答率が低かった。	目標値を下回っている。生物分野、物理分野の正答率が低かった。	実験や観察などの活動において、新しい知識や技能を積極的に獲得しようとしている。実験や観察での考察を苦手とする生徒もいる。振り返りシートの活用を行っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。特に、生命分野の正答率が低かった。	目標値を下回っている。エネルギー分野の短文問題の正答率が低かった。一方で、粒子分野や地球分野の正答率は大きく上回った。	実験や観察などの活動に積極的に取り組む姿が見られる。一方で、計算に苦手意識をもつ生徒が少なくない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。特に生命やエネルギー分野の正答率が大きく下回っていた。	目標値を下回っている。地球やエネルギー分野の正答率が大きく下回っていた。	積極的に学習に取り組もうとする生徒が増えてきた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを活用し、映像などによって視覚的に理解を深め、問題集などを復習に活用して知識の定着を促す。	実験の目的を明確にし、課題解決のための実験を計画し、実施する。実験結果や考察を記述したり、自らの考えを発表したりする機会を増やし、事象や考えをまとめる機会を増やす。	実験や考察などの活動において、各自に役割分担や責任が生じるように授業形態を工夫する。振り返りシート等を利用し、自らの学習に対して振り返り、改善する機会を設定する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを活用し、映像などによって視覚的に理解を深め、問題集などを復習に活用して知識の定着を促す。	実験の目的を明確にし、課題解決のための実験を計画し、実施する。実験結果や考察を記述したり、自らの考えを発表したりする機会を増やし、事象や考えをまとめる機会を増やす。	実験や考察などの活動において、各自に役割分担や責任が生じるように授業形態を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを活用し、映像などによって視覚的に理解を深め、問題集などを復習に活用して知識の定着を促す。	実験の目的を明確にし、課題解決のための実験を計画し、実施する。実験結果をもとに課題解決を行うよう指導していく。	学習内容を身近な生活と結びつけた指導を行い、生徒の科学的に探求しようとする姿勢を促す。主体的に学習に取り組む態度を育てる。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペアワークやグループワークを通して生徒同士が意見を共有することで、様々な自己表現活動に意欲的に取り組む生徒が見られるようになってきた。
- ・対話文の聞き取りには積極的で、日常的な話題の概要把握をする力が身に付いている。

(2) 課題

- ・語彙・文法の定着に課題が見られるため、理解度確認テストや単語テスト等を実施し、基礎的、基本的な内容の定着を図る。
- ・書くこと、話すことについて課題が見られる。身に付けた基礎的、基本的な内容を用いてアウトプットする機会を意図的に設け、インプットの質を高める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	すべての観点において、目標値と同等か、それを上回っている。		
第2学年	すべての観点において、目標値と同等か、それを下回っている。	知識・技能の観点は目標値とほぼ同等で、それ以外の観点は目標値を下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	すべての観点において、目標値を下回っている。	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。 (第2学年時)	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近で簡単な語句を聞き、その意味を理解することはできている。英文の読み取りに課題がみられる。	日常生活に関する会話を聞き、理解する力は身に付いている。自分自身についてテーマに沿って書く力に課題が見られる。	話したい、書きたいことについて既習内容や自ら調べたことを用いて表現しようとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対話文を読み、文構造や文法事項を理解することに課題がみられる。	対話の流れに合った英文を、相手に書くように伝えることに課題がみられる。	自ら学んできた文法や知識を使って、与えられた課題に取り組もうと努力する姿が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な英文の意味は理解できている。ただ、既習の文法事項や単語の定着に課題がある。対話文や長文を読解し、必要な情報を読み取ることには課題がある。	自分の考えや意見を表現し、相手に伝えることに課題が見られる。英文の正確さには課題があるものの好きなテーマで書くことへの試みや努力が見られる。	自ら学んできた文法や知識を使って自分の意見や気持ちを相手に伝えようとしている。与えられた課題に取り組もうと努力する姿が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書やビンゴを活用し、基本的な語彙・文法知識の補充を図る。音声や視覚的な補助を効果的に利用し、理解に時間のかかる生徒への支援を行う。	ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒同士がアイデアを共有する言語活動を多く取り入れ、表現を理解したり活用したりする機会を増やす。共有した内容を自己表現に生かしていく。	様々なテーマに応じた表現を身に付け、実際に使うことができるようにペアワークやパフォーマンステストの工夫をする。アウトプットさせる機会を増やし、インプットの質を高める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習問題への取り組みや小テストを定期的実施し、インプットとアウトプットを短い期間で繰り返すことで知識の定着を図る。	インタビュー形式のやり取りや、英作文などの場面を設定し、インプットした知識を活用する機会を設ける。	ICTを活用し、自主的に学習に取り組む方法を提示し、パフォーマンステストなどの課題に対して個々にアプローチする環境を設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習問題を多く取り入れ、知識の定着をはかる。教科書やビンゴを活用し、さらなる語彙・文法知識の定着をはかるとともに、Reading テスト、単語テスト、入試問題を取り入れた実践的学習を行う。	スピーキングテストに備えて、ALTを活用した言語活動（音読、会話、ナレーション説明）や自分の意見をプレゼンする企画を通し、アウトプットを重視した授業を目指す。身に付けた知識を活用できるよう問題演習をする。	自分の経験や意見を友達の前で発表させるなどのグループ活動を多く取り入れ、自然と英語で話す姿勢を身に付けることを目指す。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・器楽の授業においてハンドベルに取り組み、「姿勢・音色・表現」を意識させ、基本的な表現の技能を身に付けることができた。
- ・和楽器の指導において、基本奏法を中心とし、楽器に親しませることができた。
- ・歌唱表現において、基本的な技術の指導をすることができた。
- ・鑑賞において、総合芸術である歌舞伎や日本伝統芸能の雅楽、世界の諸民族の音楽を扱い、音楽的知識・音楽的感受性の幅を広げることができた。

(2) 課題

- ・合唱及び歌唱における表現（表情）の基礎的な技術の習得及び表現の工夫に課題がある。
- ・鑑賞において、音楽を感受したことを「言葉で表す」ことに課題がある。
- ・学んだ知識を自分の表現につなげることに課題がみられる。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱に対して、自信をもって取り組んでいる生徒が多い。 リズム表現においては、意欲的に取り組む生徒が多い。器楽・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	鑑賞においての思考に苦労している生徒が見られる。 音楽をよく聴き、知覚・感受したことを言葉で表すことに苦手意識がある。	音楽に対する意欲・関心は高い。また、歌唱以外の学習に対しても、興味・関心をもって取り組んでいる生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱に対して、積極的に取り組んでいる生徒が多い。 器楽・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	鑑賞においての思考に苦労している生徒が見られる。 音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞し、知覚・感受したことを言葉で表すことに苦手意識がある。	歌唱に対する意欲・関心が高い。また、鑑賞や器楽の学習に対しても、興味・関心をもって取り組んでいる生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に意欲的に取り組む生徒が多い。 鑑賞・創作に対する苦手意識を強くもつ生徒が多い。	音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞している生徒が多い。知覚・感受したことを言葉で豊かに表すことに苦手意識がある。音楽の基礎的な知識が定着してきているが、それらを表現につなげることに課題がある。	歌唱に対する意欲・関心は学年が上がるとともに高まっている。また、その他の学習に対しても意欲的に取り組むようになっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、表現の幅を広げる。	授業規律の徹底及び基礎的な能力の定着を図る。授業の開始時に本時の内容を明確に提示し、活動に入りやすい導入を工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作における基礎的な技能を身に付けられるように授業で反復練習を行う。また様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、歌唱し、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習の技術を活かし、自主的に創意工夫をして造形制作をすることができた。

(2) 課題

- ・完成までの見通しを立て作品作りを進めることを苦手とする生徒が多い。
- ・ICT を効果的に授業で活用していくことが必要。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
鉛筆や絵の具などを用い、どう表現するか、見通しをもって作業する生徒が少ない。	形や色彩などを工夫し、構想をねることができる生徒が少ない。	意味や美しさを考えて文字をデザインすることにより関心をもつことが必要である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構図や顔の角度、表情しぐさに意図や工夫を持たせている生徒が少ない。	心の内面や自身のイメージを絵で表現できる生徒が少ない。	心の中を見つめ、自分らしさを自画像で表すことに関心を持ち意欲的に取り組む姿勢が少ない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作業が単調になっている生徒が多く、表現の効果をとらえることが必要。	構図や背景などの効果を考え、構想を練ることができている生徒が少ない。	手法を生かして表すことに関心を持ち、意欲的に取り組むことを自ら行えていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見通しを持ちやすい目標を設定するよう促す。	色彩についての基礎知識をつけさせる内容を授業に組み込む。	具体的な例などをより多く見せることで生徒がイメージを持ちやすくする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構図やその印象について考える機会を増やす内容を授業に取り入れる。	自分のイメージを周りと共有する活動や、表現する活動を増やし、可視化する。	ほかの生徒の自画像や、巨匠の自画像を見比べる時間を増やし、関心を持たせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表現の効果について改めて考えなおす場を作り、アイデアスケッチの機会を増やす。	構図や背景などの効果が全体に及ぼす影響について考える機会を設ける。	生徒が取り組んでいる課題について、ほかの題材も生徒にみせ、今描いている作品と比べたりすることで関心を持たせる。

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業の規律を徹底し、安全に授業を実施することができた。
- ・ICT 機器を活用し、生徒の対話的な学びにつながる活動を実施することができた。
- ・振り返りシートを作成し自身の取り組みの成果や課題を見つけるなど、主体性が見られた。

(2) 課題

- ・運動に対しての意欲が二極化し、体育着忘れや見学が増えている。
- ・各種目の技能について、どうすればできるかを周囲と考え、説明することに課題がある。
- ・学級や学年を跨いだ集団行動の際、規律を意識した行動をとることにまだ課題がある。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技術の名称や行い方について二極化している。運動を調整することに課題がある。	自己や他者の課題に対して、発言をしたり簡単な文章でまとめたりすることができる。	健康・安全に気を配ることができる。忘れ物や見学が多く、授業への参加意欲が低い生徒がいる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の名称やルールについて理解する生徒は多いが、基本的な技能の習得に課題がある生徒が多い。	運動について、自己の課題を考え周囲に説明することに苦手意識がある生徒が多い。	授業に積極的に取り組み、互いの健康、安全に配慮できる生徒が多いが、種目によって見学が増えてしまうことがある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得については、定期考査の結果から、全体的に向上傾向が見受けられる。 技能については、基本的なボール操作やスピードを上げるための効果的な動き方ができている。	安全面に配慮しながら活動できている。自分で工夫して活動できている生徒が多いが、改善点を分析し、解決していくことが課題である。	授業に取り組む意識は高いが、チームや他者の課題を発信する力がやや不足している。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識や技能を学習カードにまとめ、習熟度別に技能を身に付けられる授業を実施する。	自己や他者の課題を的確に表現し、改善の方法を見つける活動に対話的に行う。	運動に対しての苦手意識を減らすため、自分で練習方法や実施する技能を選択できるようにする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個々の習熟度に沿った、多様な練習方法の用意や、目標を複数設けることで一人一人に応じた活動時間を確保できるように授業を展開していく。	ICT の活用により自他の運動について、互いに意見を言葉にして説明しあう活動時間を確保したうえで実践できるようにする。	定期的に学習内容を振り返る場面を取り入れ、自身の取り組みについて生徒本人がその成果を実感できるような場面を設定していく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より高い技能の習得に向けて、ポイント理解を深めるために、体を動かす活動をより多く取り入れる。	言語活動を充実させるとともに、ペア・グループ学習を常に実施することで自己の課題を考えさせる。	学習カードやタブレットを用いて考える意識を育み、学習への興味・関心を高めていく。

和7年度 技術・家庭科（技術分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器を活用し、興味・関心を高めることができ、安全でわかりやすい授業を展開できた。
- ・振返りシートを活用し、作業進度を各自が確認しながら作業に当たることができた。

(2) 課題

- ・生活の中にある問題を見つけ、自ら考え課題を解決する能力を身に付ける。
- ・ICT 機器を活用し、授業の振返りの入力や作業方法を提示できるようにし、主体的に学習を進められる力を付ける。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した知識を実習の中で活用できている生徒が多い。	自分の考えたことを表現しようとしているが、うまく書き表すことができない。	個人差はあるが、ねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した知識を実習の中で活用できている生徒が少ない。	学習した内容の定着は比較的高いが、自身の考えを他者に伝えることに課題がある。	個人差はあるが、ねばり粘り強く学習に取り組むことができない生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した内容を実習の中で活用することができる生徒が多い。	これからの生活や作品づくりに生かすことを意識し、課題に取り組んでいる。	個人差はあるが、比較的ねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思える授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明をするなど表現する能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業の具体的な指示を行うことで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、作業工程をタブレットでまとめ、説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

令和7年度 技術・家庭科（家庭分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験的、実践的な活動を多く取り入れることにより、生徒の主体的な学びを深めることができた。
- ・ポートフォリオによる計画・実践・評価・改善を行い、自ら課題を解決する能力を身に付けさせることができた。

(2) 課題

- ・学習内容、特に座学時の生徒の興味関心や学習に向かう姿勢に差があることが課題である。
- ・学力定着や内容理解を促す、ICT機器の効果的な活用方法が課題である。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での既習内容の定着度、知識習得内容の差が大きい。	自分や家族の食生活を振り返り、課題を発見することはできるが、生活をよりよくしようとする具体的な改善策の工夫が必要である。	課題に取り組む姿勢は見られるが、課題を見い出そうとする意欲や具体的な改善策を深く考える取り組みには個人差がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な学習内容の定着は図れているが、レポートをまとめる力等、個人差が見られる。	自分や家族の衣生活を振り返り、既習内容を活用しながら、問題を改善、工夫しようとしている。	自分の生活に身近な課題についての関心が高く、これからの生活に生かそうとする意欲は高い。粘り強く取り組もうとする態度は個人差が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な学習内容の定着は図れているが、活用する力に個人差が見られる。	自分の成長や幼児の特徴を考慮し、これからの作品づくりを工夫しようとしている。	自分の成長を振り返りながら、課題を解決していこうとする意欲があるが、深く考えようとする態度には個人差が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での学習内容を確認しながら、教材開発および授業展開を行う。既習内容を振り返る場面や繰り返しの学習を充実させ、知識・技能の定着を図る。	自分や家族の生活を振り返り、生活をよりよくするための課題を見つけ、それに必要な情報等を収集し、生活に生かしていく思考力を育成する。	自分や家族の生活を振り返る場面を多く取り入れていく。 自己評価や相互評価、協働作業を積極的に取り入れ、より自分の生活に関心をもてるようにする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
製作など体験的な活動を通して、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	自分や家族の生活を振り返り、生活をよりよくするための課題を見つけ、それに必要な情報等を収集し、生活に生かしていく思考力を育成する。	自分や家族の生活を振り返る場面を多く取り入れ、自ら考えようとする力や意欲を高める。作品製作において、計画・実践・評価・改善を繰り返し、学習への意欲を高める。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を折に触れて振り返り、知識・技能の定着を図る。製作など体験的な活動を通して、知識技能を活用する力も養う。	自分や家族、地域社会の生活を振り返ったり、様々な情報を収集したりする中で、自分の課題を解決していく力、これからの生活に生かしていく力を養う。	作品製作において、製作時の自己評価や生徒相互の教え合いを通し、学習への意欲を高める。